

# 医薬事業戦略

2022年11月16日

常務取締役 医薬事業部長

西田 健一



# 目次

---

1

## 医薬事業実績報告

2

## 生産体制の取り組み

- ①注射剤工場の増産体制強化
- ②経口剤工場の増産体制強化

# 医薬事業各部門 損益(2022年度上期実績)

単位：百万円

	ニプロ医薬事業部 +ニプロファーマG	全星薬品工業	ニプロJMIファーマ	合計
<b>外部売上高</b>	25,125	6,280	2,729	34,134
対前年	94.19%	102.80%	124.71%	97.60%
対予算進捗率	41.32%	48.68%	51.61%	43.21%
<b>売上総利益</b>	1,539	2,795	1,914	6,248
対前年	42.03%	111.99%	126.17%	81.41%
対予算進捗率	12.28%	58.33%	52.13%	29.75%
<b>販管費</b>	2,779	1,087	1,533	5,399
対前年	108.30%	83.36%	127.89%	106.54%
対予算進捗率	48.34%	43.21%	54.09%	48.64%
<b>営業利益</b>	-1,240	1,708	381	849
対前年	(-3,806)	143.19%	119.70%	32.57%
対予算進捗率	(-8,026)	75.02%	45.48%	8.58%

# 医薬事業各部門 損益(2022年度通期予想)

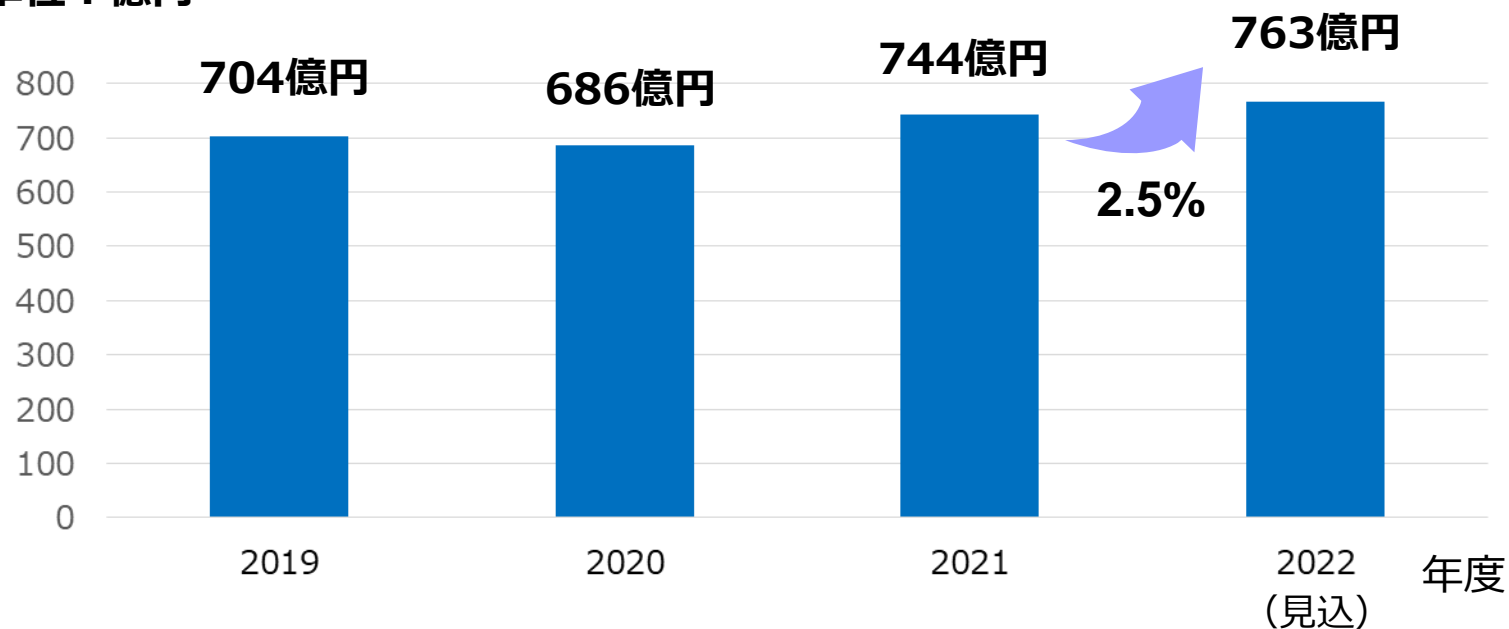
単位：百万円

	ニプロ医薬事業部 +ニプロファーマG	全星薬品工業	ニプロJMIファーマ	合計
<b>外部売上高</b>	57,429	13,139	5,693	76,260
対前年	100.46%	105.40%	119.67%	102.52%
対予算	94.44%	101.85%	107.67%	96.53%
<b>売上総利益</b>	4,621	5,191	3,988	13,800
対前年	41.98%	96.30%	121.01%	70.08%
対予算	36.86%	108.32%	108.62%	65.71%
<b>販管費</b>	5,835	2,262	3,103	11,200
対前年	119.23%	92.85%	122.36%	113.52%
対予算	101.50%	89.90%	109.45%	100.90%
<b>営業利益</b>	-1,214	2,929	885	2,600
対前年	(-7,326)	99.14%	116.51%	26.46%
対予算	(-8,000)	128.62%	105.79%	26.26%

# 医薬事業セグメント 売上高推移

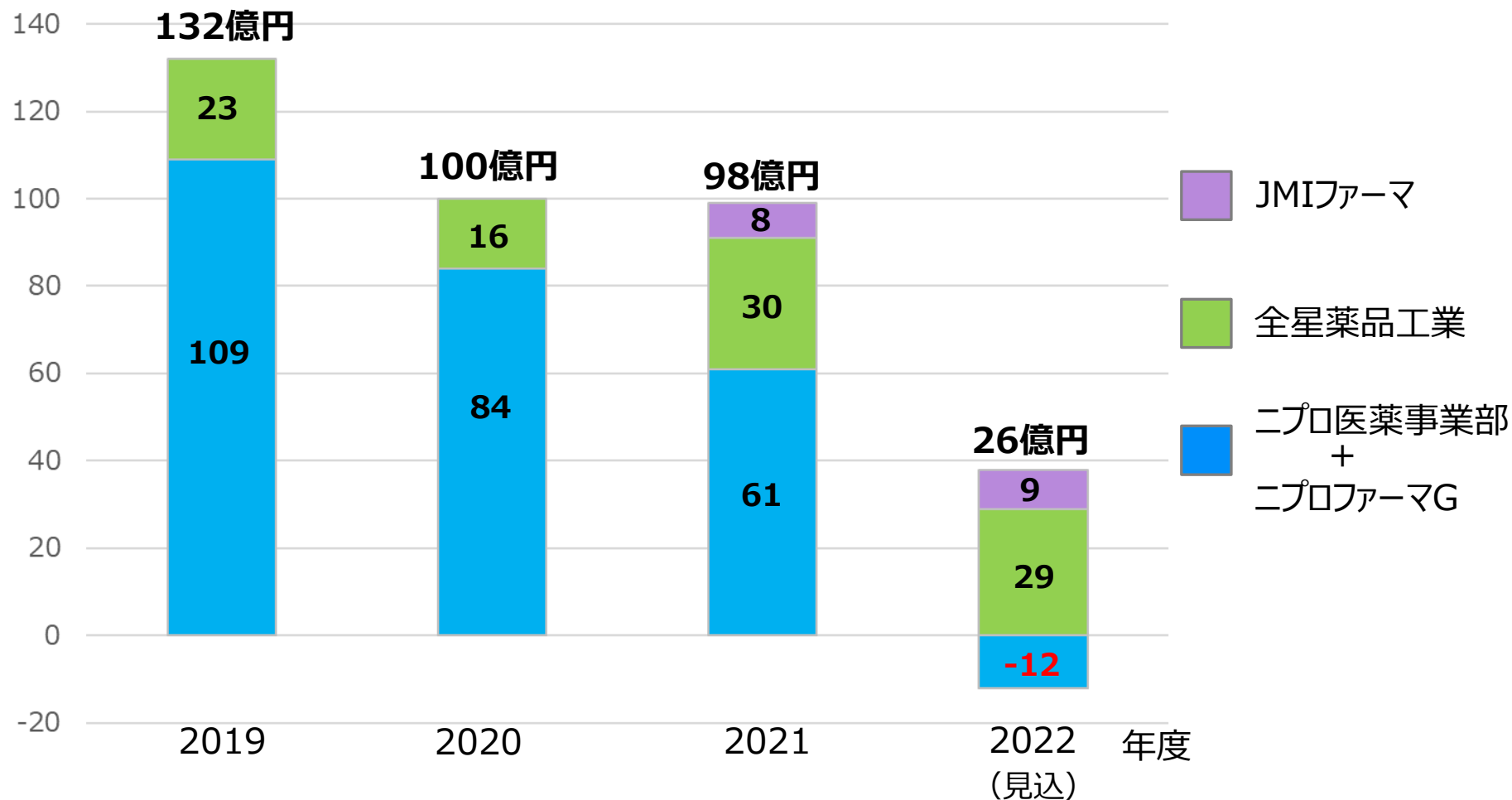
- 通期では既存品の減少を新規品が補ったこともあり、売上高は伸長

単位：億円



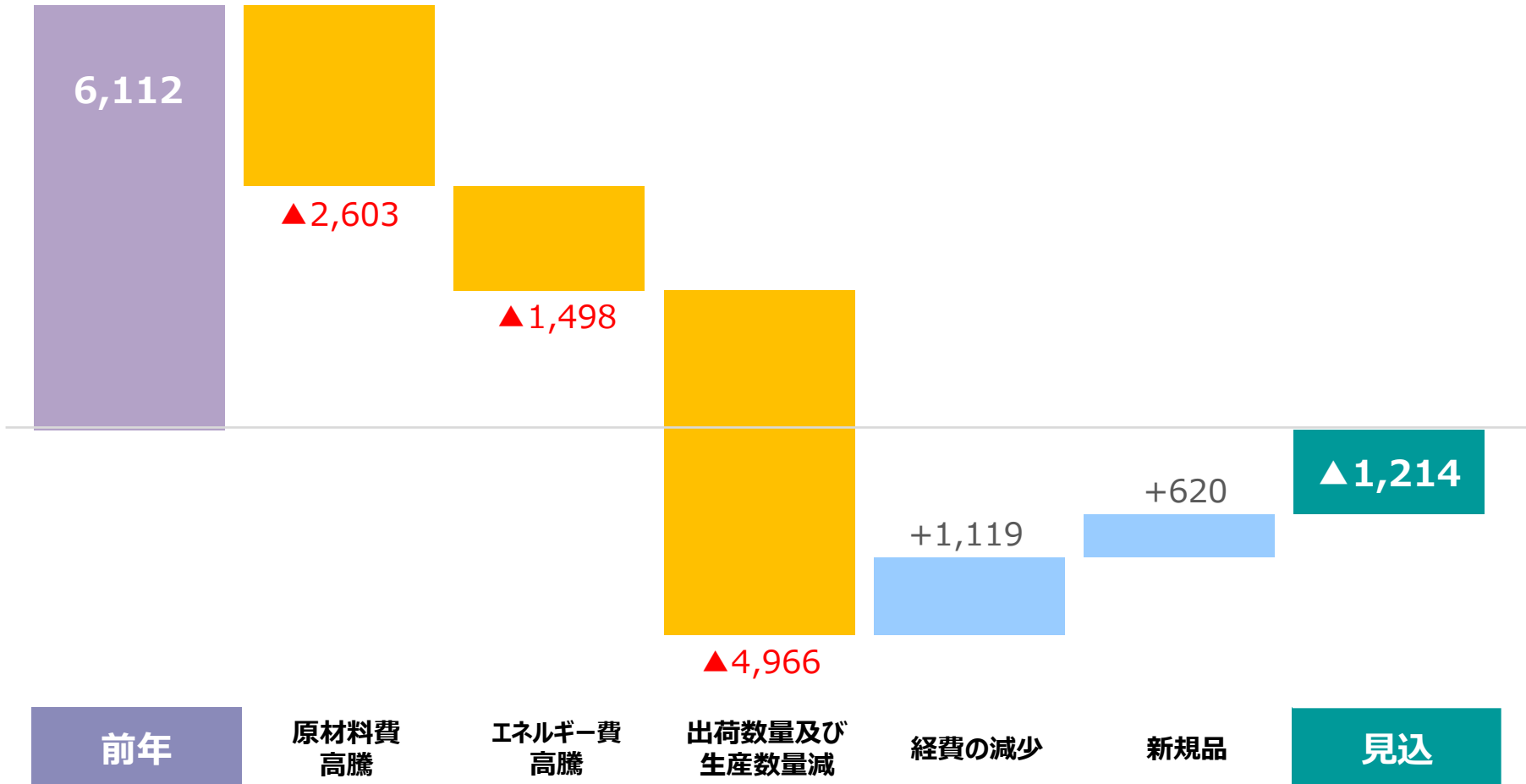
# 医薬事業各部門 営業利益推移

単位：億円



# 営業損失の要因(対前年)

単位：百万円



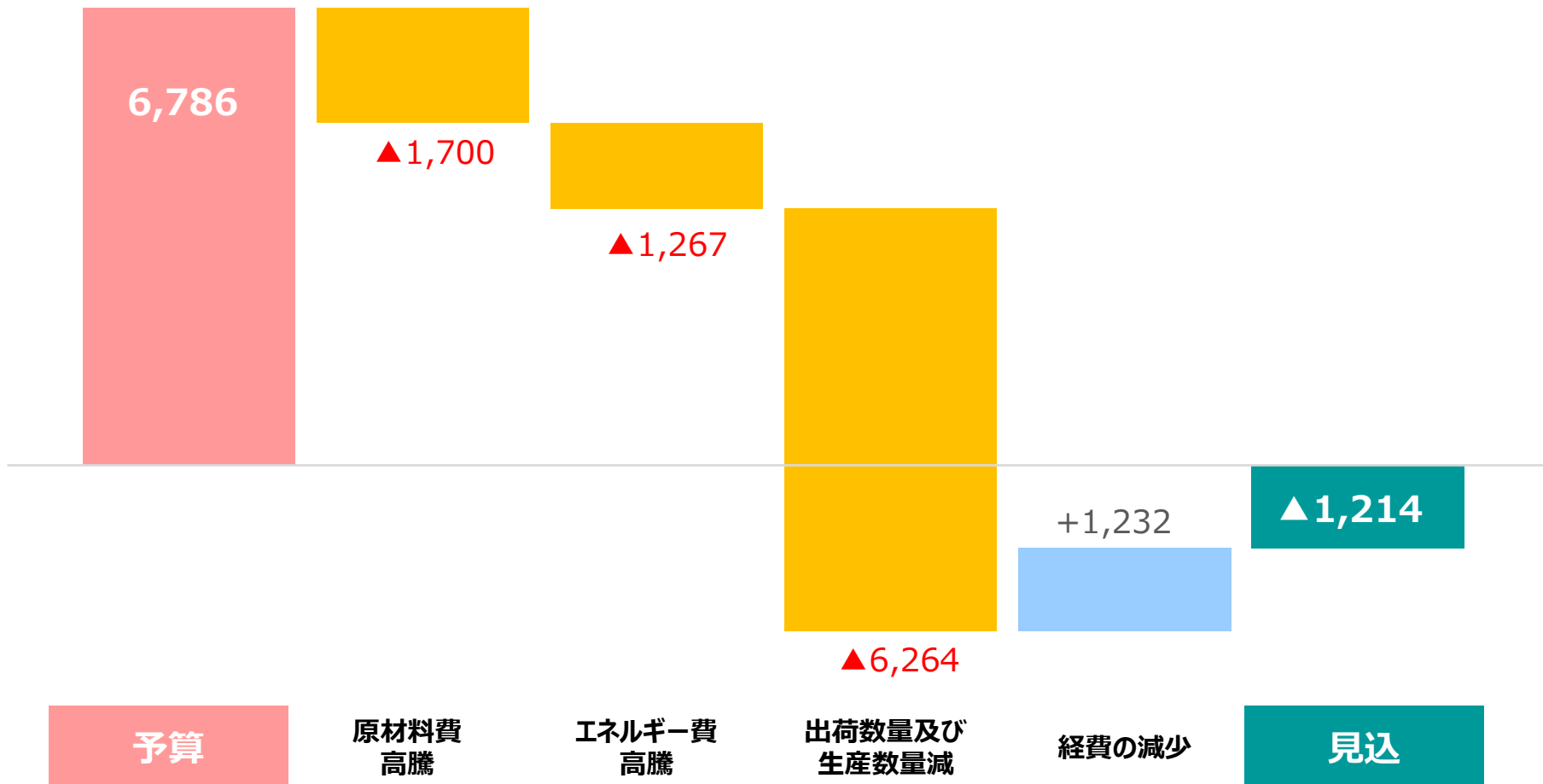
# 営業損失の要因(対前年)

要因	主な内容	単位：億円
<b>原材料費の高騰</b> <b>▲26.0</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原料(為替の影響除く) <b>▲10.5</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 抗菌薬 <b>▲6.6</b></li> <li>- その他原料 <b>▲3.9</b></li> </ul> </li> <li>・資材 <b>▲5.9</b></li> <li>・為替の影響 <b>▲9.6</b></li> </ul>	
<b>エネルギー費の高騰</b> <b>▲15.0</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電力単価UP <b>▲9.1</b></li> <li>・LNG/LPG/都市ガス単価UP <b>▲5.9</b></li> </ul>	
<b>出荷数量及び 生産数量減</b> <b>▲49.7</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売終了含む受注数量の減少 <b>▲31.3</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 注射剤 <b>▲27.1</b></li> <li>- その他 <b>▲4.2</b></li> </ul> </li> <li>・納期遅延 <b>▲12.3</b></li> </ul>	



# 営業損失の要因(対予算)

単位：百万円



# 営業損失の外的要因(対予算)

要因	主な内容	単位：億円
<b>原材料費の高騰</b> <b>▲17.0</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原料(為替の影響除く) <b>▲ 6.9</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 抗菌薬 <b>▲ 2.6</b></li> <li>- その他原料 <b>▲ 4.2</b></li> </ul> </li> <li>・為替の影響 <b>▲ 10.1</b></li> </ul>	
<b>エネルギー費の高騰</b> <b>▲12.7</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電力単価UP <b>▲ 6.8</b></li> <li>・LNG/LPG/都市ガス単価UP <b>▲ 5.9</b></li> </ul>	
<b>出荷数量及び 生産数量減</b> <b>▲62.6</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売終了含む受注数量の減少 <b>▲ 51.3</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- コロナ関連品 <b>▲ 21.6</b></li> <li>- 注射剤 <b>▲ 19.4</b></li> <li>- その他 <b>▲ 10.3</b></li> </ul> </li> <li>・納期遅延 <b>▲ 9.6</b></li> </ul>	

# 注射剤工場の増産体制強化

# 新工場：近江工場【抗菌薬棟】

2022年5月  
建築着工

2024年4月  
稼働開始

所在地：滋賀県栗東市  
敷地面積：103,000m<sup>2</sup>  
延べ床面積(3階)：約13,000 m<sup>2</sup>  
免震構造を採用



「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」の採択事業

## 製造棟 抗菌薬製剤製造

主な機能

- ダブルバッグライン (1000万袋/年)
- バイアル検査包装ライン

## 倉庫棟

主な機能

- 常温・冷蔵倉庫 (1,800パレット)

# 新工場：近江工場【バイアル棟】

2023年7月  
建築着工

2026年6月  
稼働開始

所在地：滋賀県栗東市  
敷地面積：103,000m<sup>2</sup>  
延べ床面積(4階)：約33,000 m<sup>2</sup>  
免震構造を採用予定



管理・QC棟

製造棟

倉庫棟

「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業費補助金」の採択事業

## 管理・QC棟

主な機能

- QCIエリア
- 管理エリア

## 製造棟

バイアル製剤製造

主な機能

- 凍結乾燥兼液バイアルライン (825万本/年)
- 液バイアルライン (2,400万本/年)
- バイアル検査包装ライン

## 倉庫棟

自動倉庫

主な機能

- 常温・冷蔵自動倉庫
- 冷凍エリア(-20℃以下)
- 超冷凍エリア(-60℃以下)



# 経口剤工場の増産体制強化

# 新工場：白河工場【経口剤製剤棟】

2024年5月  
建築着工

2025年7月  
稼働開始

所在地：福島県白河市  
敷地面積：約50,000m<sup>2</sup>  
延べ床(1階)：13,000 m<sup>2</sup>



「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」の採択事業

- 複数サイト化によるBCP対策（鏡石工場から9.5億錠を移管予定）
- 2026年度に年間16億錠の増産体制を構築
- 地震に強い低層階工場
- 高活性対応エリアの設置



# 全星薬品工業 和泉工場：増産体制強化

2022年11月  
建築着工

2023年4月  
稼働開始



製剤：製造室 8 室新設

(導入予定設備)

- ✓ 微粒子コーティング機：1台
- ✓ 造粒機：2台
- ✓ 打錠機：1台
- ✓ コーティング機：1台
- ✓ 錠剤検査機：2台
- ✓ 錠剤・カプセル検査機：1台

包装：PTP 2 ライン新設

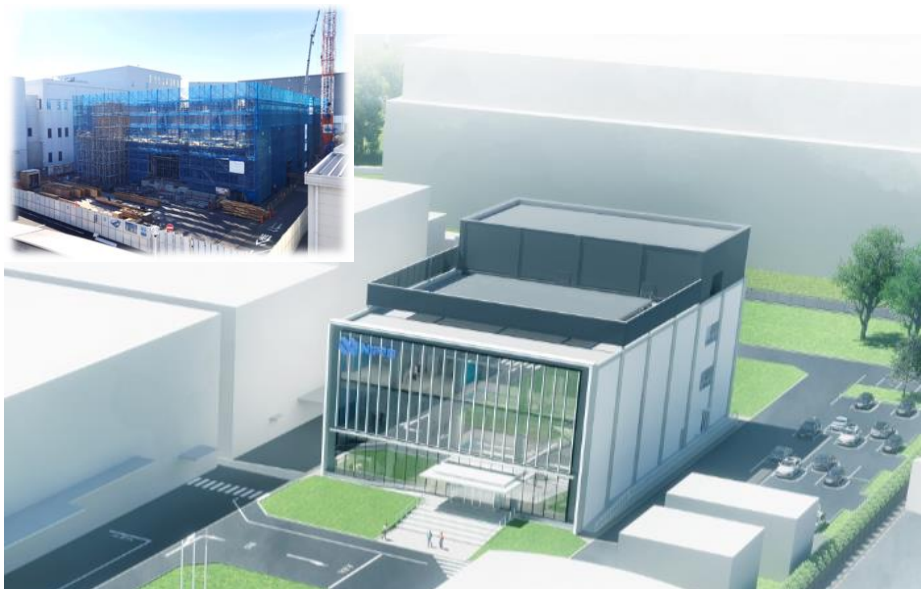
- ✓ 生産能力6000錠/分：2台

## 未実装エリアの稼働

- 2024年度に年間5億錠(売上高：7.8億円)を増産予定
- 2024年度生産予定数量：24億錠



# QCセンターの構築



埼玉QCセンター 完成予定図



大阪QCセンター 改装イメージ図

## 品質管理体制の強化

2023年 6月 埼玉QCセンター稼働  
2024年 4月 大阪QCセンター稼働

- システムを使った高度な記録管理と試験操作のエビデンス確保
- 試験者の育成強化のためのトレーニングセンターを併設